



慶應言語学
コロキアム

慶應義塾大学言語文化研究所
The Keio Institute of Cultural and Linguistic Studies

KP 仮説下における ラベル付けと格与値

講師： 斎藤 衛 氏 (南山大学教授)

[日時] 2019年3月19日(火) 13:30-17:00

[会場] 慶應義塾大学三田キャンパス東館6階 G-Lab

*参加費無料・事前申込不要 (会場にて参加者カードへの記入が必要となります)

Saito (2016) において、日本語の接辞文法格が、反ラベル装置として機能することを提案し、これにより、多重主語文、スクランブリング、項省略などの日本語文法の特質を説明しうることを論じた。この提案が正しければ、接辞文法格がなぜこのような機能を有するのかという次の問いが生じる。本発表の前半では、格を主要部とする KP 仮説を採用し、K がラベルを供給できない弱主要部 (Chomsky 2015) であることを提案して、この問いに答えることを試みる。また、後半では、Saito (2016) で前提とした文法格与値のメカニズムを精密化し、例えば、Nomura (2018) の洞察を取り入れつつ、単文、複文双方の性質をもつ使役文の新たな分析を提示する。